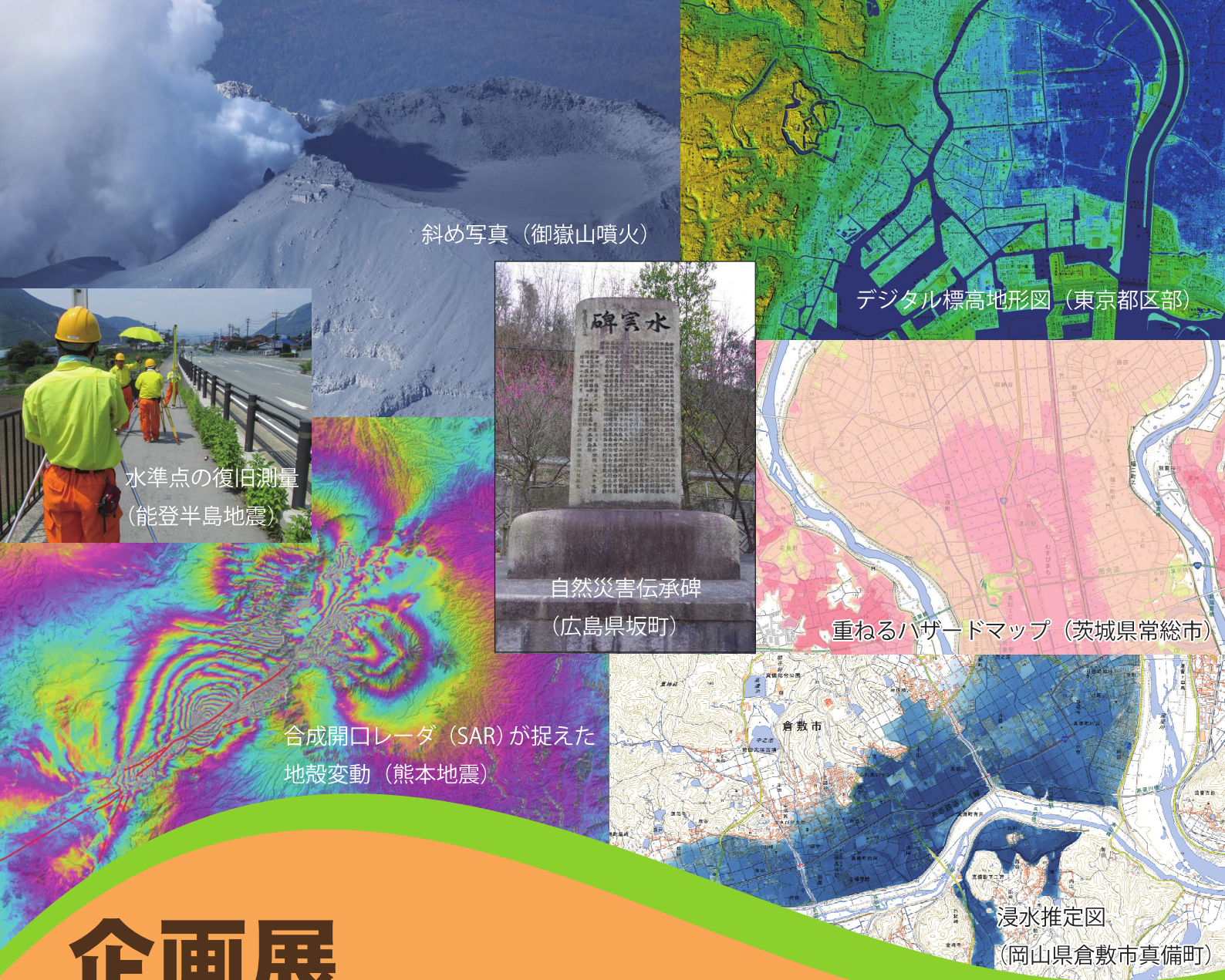




斜め写真（御嶽山噴火）

デジタル標高地形図（東京都区部）

水準点の復旧測量
（能登半島地震）

自然災害伝承碑
（広島県坂町）

重ねるハザードマップ（茨城県常総市）

合成開口レーダ（SAR）が捉えた
地殻変動（熊本地震）

浸水推定図
（岡山県倉敷市真備町）

企画展

国土地理院と防災

2025年10月21日（火）～12月21日（日）

入場
無料

地図と測量の科学館

9:30～16:30（入館16:00まで）

休館日：毎週月曜日（休日の場合は順次翌日）



国土地理院

茨城県つくば市北郷1番



開催にあたって

企画展 国土地理院と防災

■あいさつ

日本列島周辺は複数のプレートがぶつかり合うことで、地殻に複雑な力が加わり、地震が多く発生します。また、国土の75%を山地が占めており、河川は標高の高い上流から河口までの距離が短く、急勾配であることから、台風や近年増加している線状降水帯による集中豪雨は、甚大な被害をもたらします。

国土地理院は「災害対策基本法」に基づく「指定行政機関」として、頻発する災害から国土と国民の生命・財産を守るため、測量・地図分野の技術を活かした災害対応関連施策を推進しています。

災害が発生すると早急に空中写真の撮影を行い、国土の地形変化をいち早く地図上に表現して、災害対策本部や関係機関に情報提供をしています。併せて、復旧・復興には欠かせない国土の水平変動や隆起、沈降等についても衛星データを即座に解析し、空中写真と合わせてホームページで公表しています。

また、防災に役立つ様々な地図情報の公開や、防災・地理教育の支援も進めています。

この企画展では、国土地理院の災害対応の取組や災害発生のメカニズム等について紹介をしています。ぜひ、この機会に足を運んでいただき、防災意識の高揚につなげていただければ幸いです。

【主な展示内容】

- 国土地理院の災害対応
- 主な地震の震源地と活火山の分布
- 災害発生のメカニズム
- 災害について学ぶ
- 災害リスクを考える
- 日本列島の監視
- 国土地理院の防災・地理教育の支援 など